

障害処理のためのセットアップ、管理ユーティリティのインストール方法、システム情報のバックアップ 方法、ネットワーク上のPCのセットアップ方法などインストールを完了した後に行う作業について説明し ています。これらの作業は運用中にも確認が必要となる場合があります。

# 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のような セットアップをしておいてください。

# メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Express5800/ftサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



重要

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの 設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

- スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2. [詳細設定]タブをクリックする。
- 3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

୬ステムのプロパティ	? X
全般  コンピュータ名   ハードビア (詳細設定) - 動更新   リモート	
Administrator としてログオンした、場合は、これらのほとんどの変更はできません。	
視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ	
ユーザー プロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定	
起動と回復 システム起動、システム障害、およびデバッグ情報	
設定①	)
環境変数(1) エラー報告(13)	

 テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

#### D:¥MEMORY.DMP

本装置では、インストール時の既定値と して以下のように設定されています。既 定値への格納を推奨します。

#### %SystemDrive%¥NECDump¥ MEMORY.DMP

起動と回復	?  ×
─記動システム────────────────────────────────────	
"Windows Server 2003, Enterprise" /fastdetect	]
<ul> <li>✓ オペレーティング システムの一覧を表示する時間(T): 30          30          ● 秒間     </li> <li>✓ 必要なときに修復オプションを表示する時間(D):          00          ● 秒間     </li> </ul>	
記動のオプション ファイルを手動で編集するには、 編集(E) 編集(E)	
<ul> <li>&gt;&gt;ステムエラー</li> <li>IV システムログにイベントを書き込む(5)</li> <li>IV 砂理本へ踏生み送信する(0)</li> </ul>	
<ul> <li>「戸自動的に再起動する(B)</li> <li>- デバッグ情報のまえ込み</li> </ul>	
「完全メモリ ダンプ ▼	
WSystemDriveW#NECDump#MEMORY.DMP	
◆ 531+W/71 Mc上書で9つ型	

#### **₩**O III

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません (メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、 2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。
- 5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をク リックする。

[パフォーマンスオプション]ウィンドウ が表示されます。

୬ステムのプロパティ ?	x
全般   コンピュータ名   ハードウェア (詳細設定) 自動更新   リモート	
Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどの変更はできません。	
パフォーマンス 視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ	
設定(S) [	
- ユーザー ブロファイル	
設定(E)	
記動と回復 システム起動、システム障害、およびデバッグ情報	
設定①	
環境変数( <u>1</u> ) Iラー報告( <u>R</u> )	
OK         キャンセル         通用(A)	

6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウ の[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

パフォーマンス オプション [?]	×
視覚効果 詳細設定	
プロセッサのスケジュール プロセッサのリソースをどう割り当てるかを選択します。	
次のパフォーマンスを優先する。 ○ プログラム(P) ○ {\\\\\>>>プラグラウンドサービス(S)}	
メモリ使用量 システムメモリをどう割り当てるかを選択します。	
次のパフォーマンスを優先する: ○ プログラム(B) ○ システム キャッシュ(D)	
仮想メモリ ページング ファイルは、Windows が RAM のように使用するハード ディスク にある領域です。 すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ: 11 MB 変更 (2)	
OK キャンセル 適用(A)	

8. [選択したドライブのページングファイル サイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨] 値以上に変更し、[設定]をクリックす る。

仮想メモリ				? X
ドライブ 「ボリューム ラベノ	ν]( <u>D</u> )	ページング ファイル	レのサイズ(MB)	
C:		192 - 384	ļ	
- 選択したドライブのペーシ	ブング ファイル	サイズーーーー		
トワイノ: 空き領域:	6663 ME	3		
初期サイズ (MB)①:	192			
最大サイズ (MB)⊗:	384	_	J	
○ システム管理サイス	Ϋ́.			
○ ページング ファイルオ	aŪ( <u>N</u> )		設定( <u>S</u> )	
オペアのドライゴの約20ペッ	-315-25	□ #ፈブ		
最小限;	2 MB	W 91X		
推奨	189 MB			
現在の割り当て	192 MB			
		-	-	
		OK		200

#### **₩**0重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期 サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場 合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(3-10ページ)」を参照してく ださい。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

## ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエ ラーを検出するとExpress5800/ftサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情 報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

- 1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- 2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力 し、[OK]をクリックする。

[Windows ワトソン博士]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報 の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で 保存されます。



[クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができ るバイナリファイルです。

Windows ワトソント ログ ファイ パス(L): クラッシュ、ンプ(P):	#士 ption Data¥Microsoft¥Dr Watson C¥Documents and Settings¥Adr	<b>?</b> × 参照(B) 参照(Q)
WAVE ファト・ション インストラクションの数位 保存するエラー数(N):	10 10	(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(
オブション マ ダンプ シンボル マ オペてのスレッド マ 既存のログ ファ・ ロ メッセージ ボック 一 音による通知(S マ クラッシュ ダンプ フリケーション エフーの	で元子 テーブル(型) コンテキストをダンプ(A) (ルに追加(E) スによる通知(型) ) ファイルの作成(T) タ 	2017 (C)
ОК	キャンセル ヘルフ(生	Ð

- 5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
  - □ ダンプシンボルテーブル
  - □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
  - □ 既存のログファイルに追加
  - □ クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

## ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てること ができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動 を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めしま す。

- スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[プログラムの追加と削除]をクリックする。
   [Windows プログラムの追加と削除]のダイアログボックスが表示されます。
- [コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
- コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボタンをオンにする。
   影つきのチェックボックスはコンポーネントの一部がインストールされていません。影つきの チェックボックスを一度はずしてからチェックし直してください。
- 4. [次へ]をクリックする。
- 5. 「Windows Server 2003, Enterprise Edition」のディスクの挿入を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従ってディスクを挿入する。

CD-ROM挿入で表示されるメニューは終了させておきます。終了させるにはメニュー画面の[×] 印をクリックします。

- 6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
- 7. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[×]印をクリックする。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール]をポイントし、 [ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。 操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

# 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDERJには、Express5800/ftサーバ監視用のFESMPRO/ ServerAgentJ、およびExpress5800シリーズ管理用のFESMPRO/ServerManagerJなど が収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、または Express5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップし てください。

## ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは、「ftサーバセットアップ」で自動的にインストールされます(プリ インストールモデルのハードディスクにも出荷時にインストール済みです)。 [スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあるこ とを確認してください。ftサーバセットアップの中でインストールしなかった場合は、個別 にインストールしてください。



## Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

ESMPRO/ServerAgentの詳細な設定は [コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリック して表示されるプロパティダイアログボッ クスで変更することができます。

設定項目に関する詳細は、[ヘルプ]をク リックすると表示されるオンラインヘルプ を参照してください。

א איירער 📾	ネル					. 🗆 ×
.av(E) &	. (E) 表示(⊻	) ^/レフ°( <u>H</u> )				
i a>ha~ル /	<u>ле</u> ,	• È	X 🖻 🖻			
	<b>M</b>	J	<b>A</b>	-	¢	×.
arver Agent	PROSet	MacFile	ODBC テータ ソース	PC 개~ト (PCMCIA)	SCSI 79779	アフリクー 追加と
	<b>4</b> 65			P		T
サーバー	サービス	ザウント	システム	シリアル ポート	テーフ° デッパイス	$\overline{\tau}^* N^*$
AA .	Ş	8	<u>60</u>	Ð	é.	
フォント	7%2%	גליד	マルチメディア	₹7°4	ユーザー補助	ライセ
112	E .	di î				
日付と時刻	■ 変換中の文 字列の色	(UPS)				
•						Þ
ESMPRO/Serv	erAgent の設定	こをおこないま?	す。			

🏫 ESMPRO ServerAgent Ver. 4.07のプロパティ 🔹 🔉
全般 システム CPU負荷 LAN HWイベントロゲ WDT シャットダウン SAF-TE
SNMPの設定 マネージャからのSNMPでの設定を許可する(2) マネージャからのパモーシャッドなウンパフトーを許可する(2) SNMP3ミュニティ名(S) public  マ
<ul> <li>□ DME名使用する(型)</li> <li>□通報報設定(型)</li> <li>□ ラックマウント</li> </ul>
ラック名(1)
□ 筐体第别 第別開始の
OK ++>\tril 1.11

### 動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

• ハードウェア

ー インストールする装置	Express5800/ftサーバ本体
ー メモリ	OSの動作に必要なメモリ+25.0MB以上
- ハードディスクの空き容量	50.0MB以上
ー モデム	モデムはページャ通報機能を使用する場合にのみ必要 です。ATコマンドを解釈するモデムであること (2400bps以上)。ダイアル回線ではメッセージを送る ことができません。プッシュ回線をご利用ください。
ソフトウェア	Windows Server 2003、Windows 2000

### セットアップを始める前に

インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントの SNMPの設定が必要です。

#### TCP/IPの設定

TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動するヘルプを参照してください。

#### SNMPサービスの設定

#### <SNMPサービスのインストール>

- 1. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開く。
- 2. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
- 3. Windows コンポーネントウィザードで[管理とモニタツール]を選択し、[詳細]をクリックする。
- 4. [簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)]のチェックボックスをチェックする。
- [次へ]をクリックする。
   ファイルのコピーが始まります。
- 6. ファイルのコピー終了後、[完了]をクリックする。

#### <SNMPサービスの設定変更>

- 1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
- 2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
- **3.** サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。 「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに[public]と入力し、[追加]をクリッ クする。

#### **₩**O EEE

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの 「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニ ティ名と同じものを入力します。
- ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。
- 5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先の ESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

#### **₩**O IEE

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

- 6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
  - ●「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
  - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
  - ●「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

#### **₩**O III

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受けつけるコミュニティ名」に もその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の 権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

#### <特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、エージェントをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス (127.0.0.1)を指定する。

#### <特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

#### **₩**O 重要

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの [SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。
- 7. ネットワークの設定を終了する。

#### **₩**O III

- OSのインストールの際にサービスパックを適用してからSNMPサービスを追加した場合は、再度サービスパックを適用してください。SNMPサービスが正しく動作せず、 ESMPRO/ServerAgentが動作しなくなることがあります。
- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、 SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてくだ さい。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このよう なソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動でき ない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除 して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。

#### システムのアップデート

ESMPRO/ServerAgentをインストールする場合は、事前にnecipmi.sysがインストールさ れている必要があります。necipmi.sysをインストールするには、装置に添付されている EXPRESSBUILDERのCD-ROMを使用してシステムのアップデートを行ってください(5-8 ページ参照)。

necipmi.sysがインストールされていない場合は、以下のメッセージを表示してESMPRO/ ServerAgentのセットアップを中止します。

「ESMPRO/ServeAgentの実行に必要な以下のファイルが存在しません。 セットアップを中止します。 necipmi.sys」

## インストール

ESMPRO/ServerAgentはExpress5800/ftサーバのインストール、または再インストールの時に同時に自動でインストールされます。

マニュアルでのインストールするときは、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメ ニューから行います。

- 1. ユーザー名「administrator」でログインする。
- 2. CD-ROM [EXPRESSBUILDER] をCD-ROM ドライブにセットする。

#### 

本体に接続されたCD-ROMドライブまたはLAN Managerで接続されたネットワーク上のCD-ROMドライブでもかまいません(以下、これらをまとめて「CD-ROMドライブ」と呼ぶ)。

#### **₩**O III

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを 行った後、そのドライブの「MC¥1ST.EXE」を実行してください。エクスプローラのネット ワークコンピュータからは起動しないでください。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

**3.** [ソフトウェアのセットアップ]から [ESMPRO]をクリックする。

ESMPROセットアップが起動し、メイン メニューが表示されます。

 ESMPROセットアップのメインメニュー で[ESMPRO/ServerAgent]をクリック する。



#### 

OSの種類に合わせて、選択できるメ ニューが変わります。(インストールで きないものは、グレー表示になります)

ESMPROセットアップ ESMPROセットアップ	×
メインメニュー	
ESMPRO/Sen/erManager	
LESMPRO/ServerAgent	
関理ユーティリティメーユニーへ	
	終了

#### **₩**O III

- ダブルクリックでメニューを選択すると同じダイアログボックスを2つ表示することがあります。[終了]をクリックしてどちらか一方のダイアログボックスを閉じてください。
- セットアップの実行中に[キャンセル]をクリックすると、インストールを中止するかどうか をたずねるメッセージが表示されます。メッセージボックスで[中止]をクリックするとイン ストールを中止できます(メインメニューは表示されたままです)。ただし、途中までセッ トアップされたファイルの削除は行われません。
- 5. [次へ]をクリックする。



ESMPRO/ServerAgentがすでにインス トールされている場合は「ESMPRO ServerAgentが既にインストールされ ています。」というダイアログボックス が表示されます。[更新]をクリックし て[次へ]をクリックすると以前のエー ジェントを削除し、新たにインストー ルし直します。



6. インストールする機種をリストから選択する。

#### 

セットアッププログラムが機種判別に成功した場合は、機種を選択するダイアログボックスが 表示されずに次に進みます。

7. ESMPRO/ServerAgentのインストール先パス名を入力し、[次へ]をクリックする。

デフォルトではルートパーティションの¥ESMディレクトリの下にESMPRO/ServerAgentのモ ジュールがインストールされます。特に問題がなければ、このまま[次へ]をクリックしてくださ い。

インストール先を変更したい場合は、[参照]をクリックして希望するインストール先のディレクトリをドライブ名を含むフルパスで指定してから[次へ]をクリックしてください。

**8.** DMIのインストール先パスを入力し、[次へ]をクリックする。

デフォルトではルートパーティションの「¥DMI¥WIN32」ディレクトリの下にDMIモジュールがインストールされます。すでにDMI2.0 SPがインストールされている場合には、そのパスがデフォルトのインストール先パスとなります。

インストール先を変更したい場合には、[参照]をクリックして希望するインストール先のディレクトリをドライブ名を含むフルパスで指定してから[次へ]をクリックしてください。

ファイルのコピー、およびESMPRO/ServerAgentの動作環境の設定が開始されます。

9. インストール終了のウィンドウが表示されたら、[OK]をクリックする。

インストールが終了します。インストールしたESMPRO/ServerAgentの機能は再起動後に有効になります。

#### ਰਾ

ESMPROのインストールが終了してもESMPROセットアップのメインメニューは消えません。他のダイアログボックスに隠れることがあるので注意してください。ESMPROセットアップを終了するときはメインメニューの「終了」をクリックしてください。

### ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

インストールされたESMPRO/ServerAgentの各種設定は出荷時の設定のままです。[ス タート]から[設定]-[コントロールパネル]をクリックして、[コントロールパネル]を開い てください。

[コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリック するとプロパティダイアログボックスが表 示されます。ダイアログボックス内の各 シートにある設定を使用する環境に合わせ てください。セットアップをする上で注意 していただきたい点や、知っておいていた だきたいことがらについて、別冊のユー ザーズガイドの5章の「補足説明」で説明し ています。セットアップをする際や、正し く動作していないのでは?と思われたとき に参照してください。

🐂 ESMPRO ServerAgent Ver. 4.07のプロパティ 🛛 🗙
全般 システム CPU負荷 LAN HWイベントロゲ WDT シャットダウン SAF-TE
SNMPの設定 マネージャからのSNMPでの設定を許可する(E) 「マネージャからのパモートシャットがウンパリアートを許可する(E) SNMPコミュニティ名(S) public  マ
■ DMIS(使用する(①) ■ 連幅設定(型) ストレージ設定(型) ラックスウント ラック名(型)
崔体振引
OK ++>>セル ヘルフ

### アンインストール

ESMPRO/ServerAgentおよびBMCコンフィグレーション、BMC FW Update Serviceの アンインストールの方法について説明します。

#### ESMPRO/ServerAgentのアンインストール

ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの方法について説明します。

- **∎**®
- ESMPRO/ServerAgentのアンインストールについて
- システムが完全に起動してからアンインストールを始めてください。
- システム起動直後にESMPRO/ServerAgentのアンインストールを行うと、「サービスの削除中…」のダイアログボックスを表示した状態でセットアッププログラムが止まってしまうことがあります。いったん「アプリケーションの切り換え」などで強制終了してください。その後システムが完全に起動してからアンインストールしてください。
- ESMPRO/ServerAgentのインストールを行うとDMI2.0 SP(Service Provider) のアンインストーラが登録されます。アンインストーラを使用してDMI2.0 SPを削除 することができます。ただし、ESMPRO/ServerAgentをアンインストールしてから 削除してください。
  - ① [コントロールパネル]から[アプリケーションの追加と削除]を起動する。
  - [DMI2.0 SP (ESMPRO)]を選択して[追加と削除]をクリックする。
- エクスプレス通報サービスをご利用の場合、ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの前にエクスプレス通報サービスを削除してください。エクスプレス通報サービスの削除方法については「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照してください。

#### ● EXPRESSBUILDERを使用してアンインストールする方法

- 1.「インストール」を参照してESMPROセットアップのメインメニューを表示させる。
- **2.** [ESMPRO/ServerAgent]をクリックする。

[ESMPRO/ServerAgentのセットアップへようこそ]というダイアログボックスが表示されます。

3. [次へ]をクリックする。

「ESMPRO ServerAgentが既にインストールされています。」というメッセージが表示されます。

- [削除する]を選択して[次へ]をクリックする。
   以上でアンインストールされます。
- EXPRESSBUILDERを使用せずにアンインストールする方法
  - 1. [コントロールパネル]から[アプリケーションの追加と削除]を起動する。
  - [ESMPRO/ServerAgent]を選択して[追加と削除]をクリックする。
     以上でアンインストールされます。

#### BMCコンフィグレーション・BMC FW Update Serviceのアンインストール

ESMPRO/ServerAgent のインストールを行うとBMC コンフィグレーション、NEC BMC FW Update Serviceのアンインストーラが登録されます。

これらのアンインストーラを使用してBMCコンフィグレーション、NEC BMC FW Update Serviceを削除することができます。

- 1. [コントロールパネル]から[アプリケーションの追加と削除]を起動する。
- [NEC BMCコンフィグレーション]、
   [NEC BMC FW Update Service]を選択して[変更/削除]をクリックする。





## ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、 Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換 する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作する ことができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項についてはユーザーズガイドの5章を参照してください。

## MWA

Management Workstation Application (MWA)は、Express5800/ftサーバ内のRomPilot やBaseboard Management Controller (BMC)などのコントローラと通信し、管理PC上で Express5800/ftサーバのBIOS設定の確認したり、管理PCにセットしたフロッピーディス クからExpress5800/ftサーバを起動したりすることができる管理用アプリケーションで す。

管理PCに「MWA Manager」をインストールし、LAN、またはWAN、シリアルポートを介し てExpress5800/ftサーバと通信することができます。 MWAについては、別冊のユーザーズガイドの5章を参照してください。

### 動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次のとおりです。

- 管理PC (インストールするコンピュータ)
   MWA はWindows が動作しているコンピュータ上で動作します。詳細については、 「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。
- MWA でリモート保守する装置
   Express5800シリーズの添付ユーザーズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilot、BMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC(IPMI1.0)とRomPilotが搭載されています。

### MWA Managerのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、管理PC側にMWA Managerをインストールしてくだ さい。MWA Managerは、CD-ROMFEXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストール します。

1. Windowsを起動させる。

#### 

MWAが動作可能なOSについては、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。 CD-ROMドライブ:¥mwa¥doc¥jp¥mwa\_fsg.pdf

2. CD-ROM[EXPRESSBUILDER]をCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能により、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

**3.** [ソフトウェアのセットアップ]-[MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポッ プアップメニューが表示されます。

 MWAのインストーラが起動するので、 インストーラの指示に従ってインストー ルする。



## エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が 随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。





エクスプレス通報サービスの契約を結んでいる場合は、別冊のユーザーズガイドの5章を参照して、サービスを受けるためのセットアップをしてください。

また、エクスプレス通報サービスのインストールに関しては、インストレーションガイドを 参照してください。

# システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム 情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リ ストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

- 1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
- 2. EXPRESSBUILDER CD-ROMをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

- 3. [ツール]-[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
- システム情報の管理]から[退避]を選択する。
   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

# ネットワーク上のPCのセットアップ

Express5800/ftサーバとTCP/IPプロトコルを利用して通信をするWindows Server 2003、またはWindows XP/2000/NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュー タをお持ちの場合には、すべてのコンピュータにおいて、以下の設定をしてください。

 「EXPRESSBUILDERJCD-ROMまたはft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM内の \STRATUS\LANG\JP\PROG\FTREG.EXEを任意のディレクトリにコピーする。



ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」 CD-ROMに含まれているソフトウェアが最新の場合には、添付されません)。

② コマンドプロンプトを起動し、上記ファイルをコピーしたディレクトリを入力して次の コマンドを入力する。

FTREG.EXE

この設定は、Express5800/ftサーバ起動直後およびCPUモジュールの再組み込み(二重化処理)時にExpress5800/ftサーバとLANプロトコルで接続されているコンピュータとの間のコネクションが無通信状態となり、タイムアウトを起こす可能性を回避するのものです。 Express5800/ftサーバ上でWindows Sever 2003が動作するシステムにおいて、起動 直後、およびCPUモジュールの再組み込み時に発生する無通信時間は、搭載のメモリサイズ および動作中アプリケーションのメモリの利用状況により大きく変動します。 無通信時間の最小時間は、搭載のメモリサイズにかかわらず瞬時であり、無通信の対象には なりません。最大無通信時間は搭載のメモリサイズ別に以下のようになります。

メモリサイズ	無通信時間
256MB	約 3.1秒
512MB	約 6.2秒
1GB	約 12.3秒
2GB	約 24.7秒
3GB	約 36.3秒
6GB	約 47.0秒

この設定プログラムでは、Windowsの次のレジストリを設定します。

#### • Windows XP/Windows NT/Windows 2000/Windows Server 2003の場合

レジストリキー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters

- 値: TcpMaxConnectRetransmissions タイプ: REG\_DWORD 設定値: 5
- 値: TcpMaxDataRetransmissions タイプ: REG\_DWORD 設定値: 8
- 値: TcpMaxConnectREsponseRetransmissions タイプ: REG\_DWORD 設定値: 5

#### ● Windows 95/98/Meの場合

レジストリキー: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\VxD\MSTCP

- 値: MaxConnectRetries タイプ: String 設定値: 5
- 値: MaxDataRetries タイプ: String 設定値: 8

# ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現している各種ソフトウェアの集合であるft制御ソフトウェアのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を 増設する場合など、動作中のft制御ソフトウェアのバージョンを確認する必要がある場合に 実施していただくことになります。

バージョン確認には、専用のツールが用意されています。下記の手順に従ってバージョンを 確認してください。

- 1. 管理者権限のあるユーザーでログインする。
- 2. 添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDERJをCD-ROMドライブにセットする。

「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア UPDATEJCD-ROMがある場合は、その CD-ROMをセットしてください。

3. 格納されてるバージョン確認ツールを実行する。

ツール名:ftVerChk.exe 格納場所:<CD-ROMドライブ>:¥FTSVTOOL¥VERSION

動作中のft制御ソフトウェアのバージョ ンが表示されます。

ft制御ソフ	トウェア バージョン確認ツール	×
•	本システムの代制御ソフトウェアのバージョンは、xx.xxです	ŧ.
	<u> </u>	

以上でバージョンの確認は完了です。

# サービスパックの適用について

Express5800/ftサーバは、お客様の判断でサービスパックを適用しないでください。



サービスパックを適用したい場合は、PP・サポートサービスをご購入のお客様は、PP・ サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、ftサーバにサービスパックを適用し てください。